

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム コスモス
（ユニット名）	グループホームコスモス1丁目
所在地 （県・市町村名）	山形県鶴岡市茅原西茅原112-6
記入者名 （管理者）	佐藤 行
記入日	平成 20 年 12 月 25 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いきいきのびのびゆうゆうと地域との交流をもちながら夢をもって暮せる施設として事業所全体で意識づけている。具体的に町内老人クラブとの交流に取り組み住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続を大切にしています。そして利用者、家族との絆を大切にしています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの入り口、事務室に掲げ理念を日々のケアに反映し取り組んでいる。	○ 日々の実践の中で理念を意識しながら取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	各ユニットの入り口、事務室内に提示してあるのでご家族の面会時にも見ていただけるようにしている。地域の老人クラブの方との茶話会などで説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の中で共に暮す一員として町内老人クラブの活動である忘年会に参加し地域の人々とより幅広い交流がもてるようにしている。公民館を利用したりホームに定期的に来てもらったり気軽に立ち寄ってもらえるようにしています。	○ もっと近隣の方々に立ち寄っていただけるよう交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会加入やボランティアの受け入れ、老人クラブの活動へ参加し、来年度から地域の方々へホームの取り組みや理念などを盛り込んだコスモス新聞を地域用として配布する予定です。	○ 地域行事や夏祭りなどにも参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特にしていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	フロア会議、全体会議で話し合い全職員で評価に取り組んでいる。	○	ケアの振り返りや見直し等をおこないサービスの質向上に活かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議が行なわれておりホームでの利用状況やサービス評価の内容を報告し話し合いをしている。書面に残して全体会議で報告し話し合い検討している。	○	これからもホームの活動等明示し率直な意見、助言をいただいて改善に向けていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れをしサービスの質向上のためにも客観的な視点で助言をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市主催の研修に参加し学習している。機会あるごとに職員への説明を行なっている。必要な利用者へは随時支援に結びつけていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会があり全体会議で議題としてとりあげている。身体拘束等の排除マニュアルを作成し、質の向上に努めている。	○	定期的に勉強会を実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。利用料金、重度化についての対応、ケアに関する考え方や取り組み、利用者の状態変化により契約解除について等十分な説明をし不安や疑問を引き出して納得を得た上で手続きを進めています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月1回派遣してもらい入居者の立場にたった意見をいただき改善に取り組んでいる。入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。	○	不満や苦情があったら速やかな対応を続けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員より暮らしぶりや様子はおたよりでお知らせし、金銭管理についてはおこずかいの出し入れをコピーし毎月報告している。	○	面会に来られない家族も多いので継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所に苦情処理担当者を明示している。苦情の要因について会議にかけて話し合い検討した結果を家族に説明し印鑑をいただいて確認してもらっています。意見や苦情を言いやすい雰囲気作りを心がけています。	○	不満や苦情があったら速やかな対応を続けていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア会議、全体会議にて意見交換している。臨時で問題ある時はその時に会議を開催し検討している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成前に利用者の予定がある時は担当職員が確保できるようにしている。利用者の生活に支障のない勤務体制ですが職員が急病や急な休みの時は変化に応じた対応をしている。	○	個別の要望に沿って必要な支援を柔軟に対応していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむおえず、異動しなければならない時は利用者、家族へ十分な説明、挨拶を実施している。新しい職員が入る場合も利用者にきちんと紹介し家族へは面会時に紹介している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へなるべく多く参加できるように計画している。研修報告は全体会議で発表してもらい報告書を閲覧できるようにしている。新人職員へは採用時の研修を実施している。	○	学習会の開催や勉強会の機会を増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し交換実習へ参加したり、地域の同業者と交流する機会をもつことで質の向上につなげている。	○	質の確保のため交流や連携を続けケアに活かしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや悩みの要因に気を配り勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保している。	○	職員が何にストレスを感じるのか個々で違うので十分に話を聞いて緩和に努めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得への支援を行なっている。現場に頻繁にいき職員の努力等を把握するように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態や本人の思いを把握するよう努め不安を和らげるためにもグループホームの見学をしていただいています。また、家族の思いを受け止め安心してもらうよう話をよく聴くことを大切にしています。	○	相談を受けてもすぐ入所につながらないことが多く、不安をとり除けるように十分話を聞き関係を大切にしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること、求めていること等をこれまでの経緯についてゆっくり話を聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実情や思いを把握し改善にむけた支援を提案したり必要に応じて他のサービスの紹介をしている。	○	緊急性のある相談者にはすぐ他のサービスができるよう支援していきたい。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり料理等昔からの知恵を聞きながら楽しく行なっている。昔からの季節の行事や風習等の話を聞きながら過ごしている。	○	本人の思いを共感し、寄り添うケアを継続したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族の思いに近づけるように利用者の様子を細かく伝えて自宅での暮らしぶりに近づけられるように共に考えていけるような関係をつくっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者とのつながりを深めていけるように家族が関われるように行事や食事会、外出等を勧め、よりよい関係を継続できるよう努めている。	○	今後も面会や行事への参加を呼びかけていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を巻き込みいきつけの美容院を利用し馴染みの関係を続けている。また、数名ではあるが1年1回墓参りを続けており尊重していきたい。	○	今後も馴染みの場所や商店等個別の希望に沿い地域へ出る機会を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格、相性を把握し関係性について情報を共有し職員が調整役となって支援している。	○	今後も楽しく生活していただけるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時いつでも相談を受け付ける旨を説明している。入院した場合は職員がお見舞いに行ったりしている。	○	退所後どのような生活を送っているか把握することも必要と思います。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人の暮らし方等を本人や家族に聞き、日々の生活に取り入れている。また、本人との関わりの中で表情や言葉のなかで真意を推し測って思いをそれとなく確認している。	○	本人の希望に沿った支援を今後も続けていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、自宅に訪問したりして本人や家族に聞くようにしている。面会時、折に触れ価値観や情報等を聞きケアに活かすようにしている。	○	在宅時の生活をできるだけ継続していただけるよう人性のあゆみシートを参考にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの暮らし方や生活リズムを把握しできる力、わかる力を見極めて全体像をつかんでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮せるように利用者や家族から思いや意見を聞き、アセスメントも含めて月に1回のケース会議の時に気づきや意見を出し合いその人らしい介護計画を作成している。	○	今後も本人、家族、グループホーム職員、必要時は他職種と連携しその人らしい介護計画を提供していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化を確認したら、ご家族や利用者の要望を取り入れながら期間が終了する前であっても検討見直ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄、生活動作を支えるための軽体操等の身体的状況及び日々の暮らしの様子等を記録している。申し送りを行い、統一したケアの対応、情報を共有している。申し送りノートを活用し勤務前に確認するよう義務づけている。	○	記録の仕方についての研修などに参加し勉強する機会をつくりたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共施設などの協力を得ながら支援している	運営推進会議への参加、ボランティアの受け入れなどしている。民生委員、消防署、警察署など。	○	フォーマル、インフォーマルな部分も活用し積極的に取り入れていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	保険以外のサービスは使っていない。	○	以外のサービスも勉強し今後活用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市の研修に参加し勉強している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に定期的に受診し外出兼ねての通院で職員が対応している。家族の協力で他の病院へ通院する方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に通院、相談する協力医がいて何か変化がある時は状況を説明報告し助言をいただいている。	○	今後も先生と密に連絡をとりながら入居者の安全な生活の支援をしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在看護師はいない。日常の健康管理や感染症対策等は連絡をとりながら対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に見舞い、状況把握のため病院関係者、また、家族とも連絡をとりながら早期退院にむけて働きかけている。	○	予測できない急変での入院もあります。できるだけ早く退院できるよう対応したい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に説明している。同時に他施設の申し込みもしていただいています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所の利用にあたっての条件をみたさなくなった時に備え、協力医に助言、指導していただくようになっています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況など情報提供を行ないきめ細かな連携を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇りを尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけはしないよう、折に触れ全体会議等で話をし意識づけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ些細なことでも本人が決められるような場面をつくっている。	○	その人らしい希望や願いを引き出すような場面作りを続けたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮し本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある対応に努めている。	○	一人一人の体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人の意向で決めていますが見守りや支援を必要時行なっています。馴染みの理美容院へは本人の希望に沿ってカットや毛染めをしています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや胡麻すり等簡単な下準備、食後の皿拭き等見守りや支えがあれば力が発揮できることを手伝っていただき、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるような雰囲気づくりを大切にしている。利用者の希望で外食もしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事や食事会等、お酒を飲んだり好きな物を食べている。職員は一人一人の嗜好物を理解し楽しめるように支援している。	○	一人一人の嗜好を理解しできるだけ希望に沿うよう提供したい。また、外食等も計画たて支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じ排泄のアセスメントを行い、トイレ誘導し気持ちよくトイレで排泄している。失敗しても周囲に気付かれないように配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の体調を観察しながら、希望にあわせ毎日入浴する方もいます。入浴の嫌いな方には無理強いせず足浴から支援していき徐々に入浴できるように進めています。	○	入浴は習慣や希望に多様性があり一人一人の希望にあわせた支援をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後の昼寝など利用者の習慣に沿って休んでいます。夜中眠れない時は温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする等配慮している。	○	夜中の不眠の原因を探り、個人にあった支援をしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者にあわせ食器拭き、テーブル拭き、モップ拭き等できることをお願いし感謝の言葉を伝えている。季節で梅干、干し柿作り等利用者と一緒に行い楽しんでいる。	○	掃除、台所の手伝い等できることはどんどん手伝っていただくよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている人もいます。普段は金庫に保管させていただき買い物の希望は一緒に出かけ使えるように支援しています。	○	管理方法は家族や本人と話し合い一人一人の力や希望にあわせて取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分等希望に応じて季節を感じるためにも散歩やドライブ、日光浴をしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と交流をもったり、外食、お茶飲み、足湯、季節の花を見に行く等外出している。利用者の思いで行きたい場所へは担当職員の勤務を調整して対応している。福祉バスの活用し花見等に出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出したり希望に応じて電話できるよう支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来ていただいている。面会者とお茶を飲みゆっくり過ごせるように対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての学習をしマニュアルも作成し身体拘束をしない支援に努めている。玄関のタッチパネルは入所時家族に説明し理解いただいている。	○	拘束のないケアを続けていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	利用者が外出したいような時、外を眺めている時を察知したら声かけし一緒に散歩、ドライブに行き気分転換し希望に沿うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が利用者を見守りやすい位置にいて同じ空間で記録等の事務作業をし、さりげなく全員の状況を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況にあわせ、また状態の変化にあわせながら注意するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。もし、事故になった場合は速やかに事故報告書へ記録し原因、予防対策を検討する。家族への説明報告をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て心肺蘇生、救急法を受講し応急手当を行なえるよう対応している。夜勤時の緊急時対応についてマニュアル作成し周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回、定期的に自主訓練を行なっている。避難場所の確認、地区の協力も得られるよう依頼している。	○	地域資源の活用、協力も必要なので働きかけを続けたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に書面をもって説明、また入居者の変化時に家族と話し合う機会をもうけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、体調、表情の変化が見られた場合バイタルチェックし記録する。管理者に報告し状況に応じて医療受診し職員間で共有する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の指導のもと効用、副作用を確認し理解し確実な与薬の支援をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起床時に冷水を飲み1日1500～2000mlの水分摂取をめやすく野菜を多め、毎朝ヨーグルト提供、ホール内の運動の声かけをして便秘予防対策に気をつけている。	○	排便については今後も重要なので力を入れていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけし義歯の洗浄を行い、見守りや個別に働きかけたり、清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分量がチェック表に記入され、把握されている。又献立は栄養士が考えている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策マニュアルがあり、それに基づいて対応できるようになっている。職員共にインフルエンザ予防接種を受け、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用している。	○	インフルエンザ、ノロウイルス等、感染症には十分注意していきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の時期には、生もの、貝類はなるべく控えるようにしている。又、毎日漂白にて消毒し感染予防に努めている。衛生チェック表にて確認しサインしている。	○	衛生管理は継続して指導していきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節の花を飾ったり、ベンチを設置し環境づくりに努めている。スロープがあり車椅子でも出入りしやすくなっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には観葉植物が植えられ、高窓からは優しい光が入り、ゆったりと居心地よい空間になっている。壁にはレク活動・行事等の写真を貼ったり、季節感のある飾りつけしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファを各箇所に設けてあり自由に座って過ごされている。独りで過ごしたい方は自室にてテレビ、新聞、音楽等を楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使用していたタンス、鏡台、テレビ、家族の写真等持ち込んでいる。利用者の状況に合わせてフローリングの床に畳やカーペットを敷いて居心地よい居室になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食後は10分程換気をし、夏場は窓を開けてこまめに換気に努めている。冷暖房の温度は利用者の様子を見ながら調整し、冬場は加湿器を設置し、50%を目標にし、体調不良者には居室に加湿器を設置し対応する。	○	空気の入替えは温度、湿度の調整に有効なので継続し、体調管理に努めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・トイレ・浴室等に手すりがあり利用している。ホームはすべてバリアフリーになっている為、安心して歩行、生活できている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に名前を明示し、トイレ、浴室等、場所がわかるように明示し混乱しないように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターの花や季節の野菜等に水やり等をして頂き、生育を楽しんでいる。ベンチを置いて、天気の良い日は日光浴をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族との絆を大切にと思いを考えたのが里帰り支援です。可能な限り気の合う利用者と一緒に自宅をたずね楽しく懐かしい時間を過ごしています。また、本人らしさを保ちながら生き生きと本人のペースにあわせてのびのびと生活していけるように常に考えながら支援していきたいと考えています。